



ニュースリリース 平成22年 9月29日

**<企画展>「真壁藍の魅力」のご案内 ～常陽史料館～**

常陽銀行(頭取 鬼澤 邦夫)は、このたび、常陽史料館(館長 江橋 上)において企画展「真壁藍の魅力」を開催いたします。

木綿の普及とともに盛んとなった藍染めは、防虫効果とともに染色により布の強度が増すとの理由から、野良着に使用されるなど日本人の生活と深い関わりを持ってきました。

真壁地方は、明治時代に木綿産業が盛んであったことなどから藍染めを行う紺屋が発展していききましたが、化学繊維の普及とともに紺屋の数も激減。町に残った最後の紺屋の廃業をきっかけに、当時の真壁町(現・桜川市)が紺屋の保存と技術の伝承を目的として平成13年に「真壁藍工房」を開設しました。さらに、「無くしてはいけない」という行政の意志に賛同した町民有志によって「真壁藍保存会」が結成されました。現在、保存会のメンバーは45名。藍染めの経験のない人がほとんどでしたが、一から技術を習得し、藍染めを生業とする職人のいない土地ながら、藍染め製品の製作ほか、藍工房の管理、藍染め教室や出前授業など「真壁藍」の保存と普及活動を続けています。

真壁藍の特色は、昔ながらの伝統的な染色法「天然藍灰汁発酵建て」を用いていること。原料であるタデ科の植物「藍」をその良質な産地である徳島県阿波地方から取り寄せています。化学染料や薬品は一切使用せず、天然の成分のみを使用した真壁藍は、植物の発酵した独特の酸味を感じる香りを帯びており、深い藍色と相まって、独特の風情を醸し出しています。

本展では、同会の協力を得て、前期にはタペストリーや小物などの藍染め作品の中からこれまでの優品約50点を、後期にはこれらの新作約50点を展示し、本藍の持つ美しさを紹介いたします。

つきましては、多くの皆さまにご覧いただけますようご高配を賜りたくご案内申し上げます。

- 会 期：平成22年10月5日(火) ～ 平成22年11月21日(日)  
前期：10月5日～10月24日、後期：10月27日～11月21日
- 休 館 日：毎週月曜日 ※10月26日は展示替えのためアトスポットは閉室
- 開館時間：10:00～17:45
- 会 場：常陽史料館 アトスポット(入場無料)  
TEL 029-228-1781(代表)